



第5章

現地活動



現地活動

〈最終打ち合わせ〉

学生派遣直前に、各協定大学と受け入れ体制についての最終的な確認を行うために特任教員2名が5大学を訪問した。

1月17日：出国

1月18日：ウダヤナ大学

1月21日：インドネシア大学

1月22日：ボゴール農科大学

1月23日：バンドン工科大学

(1月24日：移動日)

1月25日：ガジャマダ大学



第5章

現地活動

〈TWINCLEプログラム学生研修〉

平成24年度は以下のように5回に分けて39名の学生が、インドネシア、カンボジアに派遣された。

派遣期間	ユニット	学生派遣人数	受入大学
1 (1/28-2/10)	A・B	7名	ウダヤナ大学
2 (2/4-2/17)	C・D	8名	ボゴール農業大学
3 (2/11-2/24)	E	4名	バンドン工科大学
4 (2/18-3/3)	F・G	8名	インドネシア大学
	H	4名	ガジャマダ大学
	J	2名	ウダヤナ大学
	K	2名	プノンペン大学
5 (3/1-3/14)	I	4名	ガジャマダ大学

【第一団】

期日：1月28日（月）～2月10日（日）

- ・受け入れ大学：ウダヤナ大学
- ・参加ユニット：A、B（7名、内1名は2月3日合流）（予定では、8名であったが、1名病欠、1名は日本大雪のため2月3日（日）合流）
- ・宿舎：Kost（住所：Putri Metro, Jl. Akasia 16 No.10、電話番号：+62-361-9223993、費用：150万ルピア（50万ルピアは宿泊前に支払う必要がある））
- ・ウダヤナ大学担当：
- ・サポートスチューデント：Made Sukewijaya（Ph.D Student）、Kadek Adiana（Master Course Student and Teacher at SMA 3 Denpasar）

1月28日（月）

18:00 デンパサール空港到着、サポートスチューデントが車をチャーターし宿舎へ移動

1月29日（火）

10:00 ウダヤナ大学にて事前研修

参加者：ウダヤナ大学学生：5名（サポートスチューデント含む）、ウダヤナ大学教員：1名、千葉大学学生：6名、千葉大学教員2名（大嵐、馬場）（計：14名）

〈内 容〉

- ・千葉大生から大学、研究、自己等の紹介
- ・ウダヤナ大学教員から大学及びバリ、研究についての紹介
- ・千葉大学学生から授業計画の発表

12:30 お昼休憩

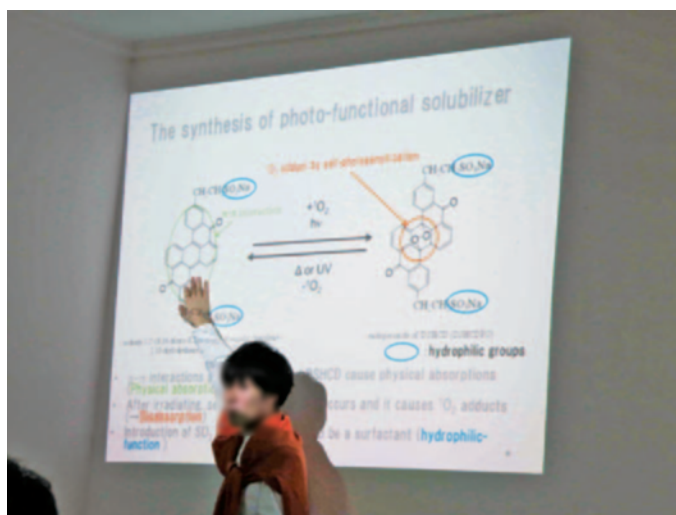
14:00 大学見学

- ・Prof. Ir. I Wayan Arthana（Head, Environmentalist）訪問
- ・環境科学の博士課程学生とともに講義室、リモートセンシングセンターの訪問

15:00 解散

（コメント）

学生による自己紹介、研究紹介、授業紹介等はパワーポイントを効果的に用いて分かりやすいものであった。ただし、ウダヤナ大学における本プログラムの受け入れ先は環境科学学部であり、それに見合うテーマの学生を派遣する必要性を感じた（いずれのテーマも工学系）。



1月30日（水）

参加者：サポート学生：1名、ウダヤナ大学スタッフ：1名、千葉大学学生6名、千葉大学教員2名（大嵐、馬場）

9:00 実習先高校見学

11:00 ウダヤナ大学にて授業準備

13:00 昼食

16:00 解散

1月31日（木）

参加者：サポート学生：2名（内1名、現地教員）、大学教員：1名（Dr. I Wayan Budiarsa）

Suyasa)、現地教員、千葉大学学生6名、千葉大学教員2名（大嵐、馬場）

8:45 SMA 3 Denpasar集合 学校長と面会

9:30 日本文化授業（第1学年2クラス）

12:00 昼食

13:30 理科授業のブラッシュアップ

15:00 解散

第5章

現地活動



（コメント）

高校の教員は非常に好意的にこのプログラムを受け入れてくれていた。生徒は、AKB48や日本のファッションに興味を持っているようで、拍手や笑いと共に楽しそうに学生の授業を受けていた。中には、学部から日本で学びたい生徒もあり、積極的に学生に質問する生徒もいた。この

ような生徒たちの日本の大学へのアクセスを容易にする方策（言語、奨学金）が期待されているようであった。

午後の理科授業のブラッシュアップでは、日本文化に関してスライドを使って説明的に授業を行うことは比較的うまくできたので、生徒に問いかけることや意見をもらうこと、さらにそれに対して学生が反応するというように、よりインタラクティブな授業に変えていくことを目標に取り組んだ。また、言葉に関して、同じ表現が繰り返し用いられていたため、それらについて他の言い回しを考えさせることを指摘した。

大学教員のI Wayan Budiarsa Suyasa先生によると、高校は現在3つのグレードに分かれており、現在もう1グレード追加することを検討している。それは、成績などによるレベル分けとは異なり、英語で授業を行うなど国際化に対応した学校を指す。特に、このレベルに認定されたい学校にとってTWINCLEプログラムは歓迎されるだろうとのことであった。

2月1日（金）

参加者：サポート学生：2名（内1名、現地教員）、大学教員：1名（Dr. I Wayan Nuarsa）、
現地教員、千葉大学学生6名、千葉大学教員2名（大嵐、馬場）

7:30 SMA 3 Denpasar集合 授業準備

8:00 理科授業1回目（第1学年×2クラス）

10:00 理科授業2回目（第1学年×2クラス）

11:30 SMA 3 Denpasar 歓迎会（伝統舞踊）

13:00 昼食

14:00 解散





(コメント)

サポート学生と学校の打ち合わせにより、理科の授業を1週間の内に1ユニット当たり2回行うことになった。学校としてはできるだけ学生に関わって欲しいようであった。実際、2回行うことは無理のないことのように感じる。SMA 3 Denpasarの学校長は、学校の問題点はないか等、授業改善への示唆が欲しい様子だった。

授業ではやはり、生徒からの質問を聞き取ること、そしてそれに的確に答えることに難があり、英語によるアドリブでの対応に課題が見られた。

この日は学校側のご厚意により、我々大学教員及び学生のSMA 3 Denpasar教員用制服を作成するために、仕立屋が来て採寸してくれた。また、地元の記者が来て学校長と共にインタビューされた。このように、このプログラムに対する期待の高さが伺えた。

学校側による歓迎会では、伝統舞踊を披露してくれ、非常に盛り上がった。そのお礼として、学生を順番に前に立たせ一言ずつスピーチをさせた。人前で話すことが、彼らを成長させているように感じた。

2月4日(月)

参加者：サポート学生：2名（内1名、現地教員）、現地教員、千葉大学学生7名、千葉大学教員1名（大嵐）

7:30 SMA 3 Denpasar集合

7:45 授業観察（理科の授業をお願いしていたが、結局、様々な教科の授業を学生それぞれの興味に基づいて観察）

11:30 授業ブラッシュアップ

12:30 解散

(コメント)

雪のため合流が遅れていた大野さんが今日から参加。物理の授業では、通常のカリキュラム以上の内容が取り扱われていた。具体的には、ロボットの作成。子どもたちはグループごとに200,000ルピア（約2千円）与えられ、それぞれのロボット作成の計画に当たっていた。例えば、壁にぶつかったら向きを変えるロボット、線の上を走ることのできるロボットなど。1ヶ月（8回の授業）でロボットの完成を目指すという。どの授業でも生徒は必要に応じて、インターネットで情報を得ることが奨励されている。

インドネシア語の授業では、ジグゾウ法を用いて科学的論文の書き方について指導されていた。高校でもこのような授業形式をとることができること、男女混合等のグループワークが頻繁に行われていることなどは日本の高校とは大きく違う点である。ただし、このような学習形態をとることができるのは生徒の学力が高いからであること、この指導形態が他の学校でも一般的ではないということであった。実際、理科関係のコンペティションなどで国際大会に出ている生徒も在籍していた。

英語をうまく流ちょうに話す生徒もいれば、まったく話せない生徒も当然いた。授業づくりにおいて検討すべき点となるだろう。

2月5日（火）

参加者：サポート学生：2名（内1名、現地教員）、現地教員、千葉大学学生7名、千葉大学教員1名（大嵐）

7:30 SMA 3 Denpasar 集合

8:00 日本文化授業（第1学年2クラス）

12:00 昼食

13:30 SMA 3に戻り、教員用制服を受け取る

14:00 解散

18:00 日本人とインドネシア人のハーフであるマナブ君親子とビーチにて食事

20:00 解散

(コメント)

8時から授業を始める予定が、最初の20分間は3年生の英語のリスニングテストがあり、学校中のスピーカーが使われるため、急遽時間を遅らせて授業開始。授業に対する生徒の反応は相変わらず良いが、2年生の方が少し冷めた反応であった。明日の理科の授業ではうまく生徒の違いに相応できることが期待される。

昼食後SMA 3に戻り、我々のために仕立てていただいた制服を受け取る。



2月6日（水）

参加者：サポート学生：2名（内1名、現地教員）、大学教員：1名（Dr. I Wayan Nuarsa）、
現地教員、千葉大学学生7名、千葉大学教員1名（大嵐）

7:30 SMA 3 Denpasar集合 授業準備

8:00 理科授業1回目（第2学年×2クラス）

9:30 理科授業2回目（第2学年×2クラス）

11:15 昼食

12:00 日本語授業に参加

13:30 解散

第5章

現地活動



(コメント)

ユニット A、B にとって最後の授業が行われた。今日はいただいた制服を着て、授業を行った。うまく授業は進んだと思うが、以下のような課題も浮かんできた。説明は練習通りうまくできるが、生徒に投げかけたりそれに答えたりすることに困難を感じているようであった。

生徒からは非常に歓迎されているようで、最後には一緒に写真を撮ったり、Facebook の ID を交換したり、プレゼントをもらったりなどしていた。

日本語授業では、通常の授業にアシスタントとして参加する予定であったが、教育実習生による授業であったことが当日判明し、教生の授業を一時間聞くことになった。最後に、千葉大学生からの日本語授業ということで、急遽、しりとり、早口言葉などで10分程度の交流を行った。

2月7日（木）

参加者：サポート学生：2名（内1名、現地教員）、ウダヤナ大学教員2名、ウダヤナ大学学生
3名、現地教員、千葉大学学生7名、千葉大学教員1名（大嵐）

12:00 SMA 3 Denpasar集合・昼食

13:00 TWINCLEプログラム最終セレモニー

13:15 ファイナルプレゼンテーション

15:00 ファイナルプレゼンテーション終了

16:00 解散

17:00 SMA 3 Denpasarの生徒（マナブ君）宅で夕食

21:00 解散



(コメント)

多くの教員に集まっていただき、SMA 3 Denpasar主催で最後のセレモニーを執り行っていた。インドネシアはやはり形式や礼儀を重んじる国である。13時から始める場合には、食事も提供することになっており、学校から弁当を出していただいた。これまでも毎回、水とお菓子が提供されていたが、学校側から全て出していただいたようである。その費用について話をしたが、おもてなしとして当然ということをおっしゃっていただいた。

ファイナルプレゼンテーションでは、学生は時間の無い中でよくプレゼン資料を作成し発表していた。授業実践を中心にすべての活動を振り返るという内容で、1グループ当たり15分程度の発表をした。発表では、授業の内容、良かった点、悪かった点などが取り上げられていた。発表に対する質問として、「日本とインドネシアの授業の違いは?」「SMA 3 Denpasarの教員及び生徒に対するアドバイスは?」「日本での授業評価の観点は?」「日本でのテストの仕組みは?」などの質問がなされた。

グループBは理科授業の最後に子どものワークシートを回収し、すべてにコメントを入れ、この日に、生徒に配布するように教師に依頼していた。このような教育学部生ならではの取り組みに教員は感銘を受けているようであった。

2月8日(金)・9日(土)

グループごとの自主研修